No.18
−FREE−

私たちの街をもっと好きになる情報紙

すみだノート

2023
春
3.11

特集「映画・演劇の街 すみだ」

撮影地：京島 Cghg

映画・演劇の街 すみだ

古くから娯楽街のまちとして栄えた墨田区は、映画や演劇は庶民の娯楽として親しまれてきました。現在も墨田区にゆかりのある映画の上映会や地域と寄り添う映画館も登場しています。演劇でも、本格的な劇場や稽古場があることから、区内外からも多くの役者や演劇ファンが訪れすみだのまちに賑わいを見せています。今号の特集では、すみだの映画・演劇を支える施設、人々を紹介していきます。

まちの外から来た人たちが広めた「演劇のまち」すみだのイメージ

すみだパークシアター倉支配人　篠原要さん

すみだパークスタジオは、倉庫業を営む先代社長が、1993年に外部の方からの要望に応えて、倉庫の空きスペースを演劇のリハーサルスタジオとして貸し出したのがはじまりです。その後、小劇場ベニサン・ピット（森下）の閉館をきっかけに客席を譲り受けて、2010年に劇場「すみだパークスタジオ倉」を作り、その後2020年に大横川親水公園側に移転し「すみだパークシアター倉」が誕生しました。

2012年には、劇場に併設したギャラリーとカフェもオープン。稽古場や倉庫など、以前は一般人が立ち入れなかった場所に新たな交流が生まれました。

篠原さん：「演劇人の方々がお芝居や稽古後にまちに出て飲み食いするようになり、横川のエリアも徐々に賑やかになりました。演劇のまちすみだのイメージを、外から来た人たちが広めてくれたんです」

稽古場をはじめた当初から付き合いのあった、演出家の横内謙介氏（劇団扉座主宰）の誘いもあり、2019年には50才以上の大人を対象にした「すみだパーク演劇部・扉座大人サテライト」を開講。演劇塾の発足をきっかけに、すみだの物語を取り入れた演劇作品がつくられました。

同年、アートプロジェクト「隅田川森羅万象 墨に夢」（通称：すみゆめ）の採択企画として初演を果たしたオムニバス短編劇「イースト・すみだ・ストーリー」は好評を博し、今年で4回目のすみゆめ参加となりました。

「いつかはすみだのまちで演劇祭のようなイベントをやってみたい」と語る篠原さん。演劇を通じて、まちが活性化する未来を描きます。

街に残る演芸の歴史と雰囲気が舞踏の表現と響き合う

DUET むつみねいろ　舞踏家　ねいろさん

24歳の頃、ふとイメージが湧いてパントマイムを始めました。意を決してポーランドで2年間修行したのち、周りの勧めもあって帰国し、大野一雄舞踏研究所で舞踏を学びました。そこでパートナーのむつみさんと出会い、二人ですみだに越してきたのは2016年のことです。

自宅を兼ねた活動拠点の「ギャルリ雨」は東墨田の荒川沿いにあり、ダンプカーの駐車場や工場に挟まれた場所。組織に属さず活動している身で、十分な広さがあって音が出せるアトリエを持てたのはありがたいことでした。近所の職人さんが舞台の制作を手伝ってくれたり、週に一度の舞踏研究会に若い人や海外の人が来てくれたりといった、周りとの関係も生まれています。

たびたび公演をさせてもらっているシアターX（カイ）のある両国近辺は、江戸時代から興行が盛んな場所でした。昔は踊りや芝居をやる人は社会制度から外れた場所にいて、そうしたどこか影のある雰囲気は、街のなかでも感じられます。私たちの舞踏も、人間の明るみに出ない部分や何かへのアンチテーゼ、自分自身への問いかけが原点にあるので、人間の後ろ姿が感じられるような街の空気感は、自分の表現にも影響していると感じます。

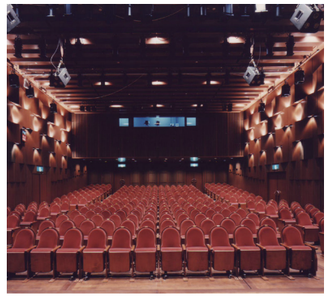
ここ数年はコロナで止まっていましたが、今後は海外での公演も増やしていく予定です。舞踏の先人たちは、自らを含めた世界や宇宙の未知なる可能性に賭けて踊りました。私たちも少なくとも地球スケールで、やれるだけのことをやってみたいと考えています。

DUETむつみねいろ https://www.mutsumineiro.com/class

シアターX（カイ）

旧両国国技館である日本大学講堂跡に建設された複合ビル「両国シティコア」内に1992年にオープンした劇場。劇場名のX（カイ）は、ギリシャ語で人々が行き交い、出会う場をイメージして名付けられた。

東京都墨田区両国2-10-14
TEL：03-5624-1181



すみだパークシアター倉

大横川親水公園に面し、ヴィーガンフードを楽しめるSASAYA CAFE。カフェとギャラリーを併設した客席数170のフレキシブルな劇場で、小演劇からミュージカルまでさまざまな演劇が日々上演されている。

東京都墨田区横川1-1-10（入口は大横川親水公園側）
TEL：03-3622-0819

SASAYA CAFE

劇場

すみだパーク演劇部
扉座大人サテライト
新規部員募集中！
50歳以上の方対象
いつだって、いつからだって、
演劇はできる。
大人のための演劇部
●体験ワークショップ開催！
2023年4月1日（土）
●「演劇部」成果発表会開催！
無料・事前申込制
詳細・お申込みは、ホームページをご覧ください▲

2009年12月より
スカイツリーから
約634歩の場所で
営業してるよ！
Love time cafe
COFFEE & WINE
＜取り扱い商品＞
・カフェインレスコーヒー・フレーバーコーヒー・イタリアワイン
・オリーブオイル・フォーチュンクッキー・相撲グッズ・すみだ土産
TEL: 03-3625-8640
有限会社ミヤココーポレーション
東京都墨田区業平3-8-1 ミヤコビル1階
営業時間 / 定休日：ホームページをご覧ください

夢を夢で終わらせない信用金庫
higashin 東京東信用金庫
https://www.higashin.co.jp
ひがしんマスコット ひがぴょん
墨田区内店舗一覧
●本店 ●隅田支店 ●隅田支店堤通出張所 ○向島出張所（ATM） ○墨田区役所出張所（ATM）
●吾嬬支店 ●本所支店 ●押上支店 ○橘銀座出張所（ATM） ○本所出張所（ATM）
●両国支店 ●駒形支店 ●錦糸町支店 ●八広支店 ○東京スカイツリー・ソラマチ出張所（ATM）

墨田区に新たなカルチャースポット
ミニシアターが登場！

映画館ストレンジャー 代表　岡村忠征さん

昨年9月に都営新宿線「菊川駅」より徒歩1分の場所に、東東京初のミニシアター「映画館Stranger（ストレンジャー）」がオープンしました。上映作品は、特集作品を中心に、日本未公開の作品からムーブオーバーの作品まで、キュレイター自ら厳選した作品が公開されています。

岡村さん：「映画館で映画を鑑賞することが特別なことではなく、ふらっと立ち寄るような日常の暮らしの一部として楽しんでもらえたらうれしいですね」

暮らしと寄り添う「新しいスタイルの映画館」として、ストレンジャーでは、「映画を知る」「映画を観る」「映画を語り合う」「映画を論じる」「映画でつながる」のうつのテーマを掲げています。

岡村さん：「ネット配信が主流になりつつある今の時代だからこそ、映画館のもつ魅力を打ち出し、映画を鑑賞した後や当館のカフェに立ち寄っていただいた際に、スタッフと映画の情報交換や感想を語り合ったり、お客様同士のコミュニティの場として、つながりを大切にしていきたいですね」

併設するカフェでは、コミュニティスペースとしての役割を持ちながらも、本格的なメニューを提供するために、バリスタが丁寧に淹れるコーヒーや中南米のエスニックフードなどメニューにもこだわりを持ちます。

「非日常」であった映画を「日常」として楽しむことができる映画館が誕生したことにより、私たちのまちの新たなライフスタイルや地域コミュニティがさらに豊かになることに期待が持てます。

映画館Stranger（ストレンジャー）

2022年9月に菊川にオープンした映画館。日本未公開作品など選りすぐりの作品も楽しむことができる。また、メニューにもこだわるおしゃれなカフェが併設されているので、映画をみた後の余韻も楽しむことができる。

東京都墨田区菊川3-7-1菊川会館
TEL：080-5295-0597

昭和の映画館の記憶

全盛期は35館ほどあった映画館

戦前・戦後は、娯楽も少なく、工場などが多く点在していた墨田区では、工員や職人などに庶民の娯楽として映画が親しまれ、まちなかにも多くの映画館がありました。

区内最古の映画館は、戦前、業平橋1丁目にあった「業平座」で、1937年2月には、江東楽天地が設立され、同年11月には、本所映画館が開館。昭和20年代後半には、区内各所で35箇所ほどの映画館があり、暮らしの身近で映画を楽しんでいました。

京島には、映画館「橘館」ができたことにより、その通りは「橘館通り」となり、現在も、「キラキラ橘商店街」に名前を残すほど、地域にも親しまれていました。

墨田区は、映画館が多かっただけではなく、大正時代には、"近代映画スタジオ発祥の地"と呼ばれる「日活向島撮影所」や「高松プロダクション・吾嬬撮影所」があり、近代映画にも深く関わっていた地域でもあります。

昨年、向島地区で「映画文化と街づくり」をミッションとして「すみだのまちの映画館」準備会が立ち上がり、曳舟文化センターと協同して市民映画館を定期的に開催する取り組みを行なっています。

同会主催により、昨年の12月に曳舟文化センターで開催された、ウクライナ支援イベント「映画『ひまわり』上映会」に続き、東武線の曳舟駅付近（曳舟文化センターも含む）にあった資生堂の石鹸工場とその周辺が舞台となった「下町の太陽」（監督：山田洋次・主演：倍賞千恵子）が今年4月に上演されます。

「『下町の太陽』は、ストーリーはもちろん、当時の墨田区の街並みや暮らしの風景も楽しむことができます」と、「すみだのまちの映画館」準備会会長の佐原滋元さん。子供の時は、家の近くの映画館に通うのが楽しみだったと語ります。

取材協力：「すみだのまちの映画館」準備会
写真提供：すみだ郷土文化資料館

昭和30年～40年代の映画館と映画会の風景

両国会館　映画会

吾嬬国際劇場

江東劇場

石原ミリオン座

第3寺島小 PTA製作映画会

昌和シネマ

墨田文化映画館

本所映画館

掲載無料
あなたのお店を
すみだノートweb
に掲載してみませんか？
ホームページ内
お申し込みフォームよりお申し込みください

大人も子どもも夢中になれる習い事
新規生徒さま募集中
SORAスタジオでは各種ダンス、格闘技、ヨガ、ピラティス、
産後ケア、バレエスクール等が開講しています。
第1号店
第2号店
第3号店
第4号店
SORA STUDIO
OSHIAGE TOKYO SKY TREE
ご予約・お問合せ
TEL.03-6284-1723
（受付時間：平日 9:00～17:00）

Sumi Time
すみだの暮らしを楽しむ
すみだで遊ぶ・学ぶ
ワークショップとまち歩きの
ウェブサイトオープン。

ライブ
カフェ
スクール
「楽器演奏をもっと身近に楽しめる」をコンセプトに、
ストリートピアノの発想から生まれた演奏も楽しめるカフェです。
LIVE SPOT Oshiage
Cafe' Mahalo
TEL.03-5637-7681
東京都墨田区業平 4-17-16
□営業時間：12:00～17:00
□定 休 日：日曜・祝日
※ライブの日時は相談可

江戸っ子でday
すみだで暮らす江戸っ子たちのONとOFF

地域に溶け込む議員秘書は「うちなーんちゅ」でイラストレーターだった。

突然ですが、皆さんは議員秘書と聞いてどんなイメージをもたれますか？

お堅いイメージ？切れ者なイメージ？そんな印象があるかもしれません。

今回取材させていただいたのは、墨田区で活躍する議員秘書の照喜名（てるきな）悟光（さとみつ）さん（亀沢在住）です。

照喜名さんは墨田区に住んで15年になりますが、名前からご想像の通り沖縄県出身で、現在は墨田区を拠点に都議会議員の秘書として活動されています。

元々政治に興味はあったものの、自分がその世界に飛び込むとは思ってなく、はじめは手探り状態で議員さんと共に二人三脚で仕事をしていたとのことです。

今では照喜名さん個人として地域の方との交流を心から楽しんでいて、その中から街の課題を発見し、議員と共に解決をしていく、それが議員秘書のやりがいだとお話しされていました。

地域に溶け込んで常に笑顔で仕事をされている照喜名さんですが、やはり秘書のお仕事は忙しく、リフレッシュが必要です。

照喜名さんのOFFはなんと、イラストを書くこと。家に帰り、無心で絵を描いている時がとても幸せな時間だそうです。

来年の目標は、イラストの個展をすること！今はその準備の為にイラストを描き溜めています。

絵を見せて頂きましたが、ポップで明るいイラストが多くありました。

「子供って時間を忘れて無心で絵を描くでしょ？あの感覚に戻るのが心地いいんだよね」と笑顔で話される照喜名さん。

忙しい毎日の中で、子供に戻ることのできる時間。そんな中で仕上げられた作品だからこそ、照喜名さんの作品は魅力的に感じました。私も個展の開催を楽しみにしています。

健康レシピ
菜の花と新玉ねぎの豆腐ラザニア

【材料】（1人分）

餃子皮----------12枚
プチトマト----------2個
とろけるチーズ------適量

❶木綿豆腐----200グラム
すりごま--------小さじ2
味噌----------小さじ3
砂糖----------小さじ1

❷菜の花--------80グラム
しめじ---------40グラム
酒-------------------小1
塩胡椒

❸新玉ねぎ-----100グラム
にんにく-------ひとかけ
鳥ももひき肉-200グラム
塩--------小さじ2分の1
ケチャップ------大さじ2
トマトソース-----100CC

▼すみだノートWebサイトにも掲載しています

【作り方】

❶(豆腐ソース)木綿豆腐をレンジで一分半加熱し、水切りをしたら熱いうちに、味噌、すりごま、砂糖を混ぜ、豆腐ソースを作る。❷菜の花を切ってしめじとオリーブオイルでお酒と塩胡椒しながら強火で炒める。❸(トマトソース)新玉ねぎをみじん切りにし、みじん切りにしたにんにくと香り良く炒め、鳥ももひき肉、塩、トマトケチャップ、トマトジュースと炒める。耐熱皿に、皮→トマトソース→豆腐ソース→菜の花炒め→皮→トマトソース→豆腐ソース→菜の花炒め→トマトソース→とろけるチーズを重ねてプチトマトを半分に切って並べ200℃のオーブンで20分～25分焼いて完成。

レシピ監修：後藤由里
こどもたちのクッキング教室「まじかるれっすん やさしいおうち曳舟教室」を主催。全寮制の学校給食、インターナショナルスクールのベジタリアンシェフを経て独立、自然食カフェ、野菜を食べるカフェを13年間経営。

調理のポイント　新玉ねぎとトマトジュースの水分で、餃子の皮をもっちりにさせます。

チヒロちゃん
～カエルの舞台～

デラシネ書館　藤岡真衣

「殿、ご注進！ご注進！」

家来が殿様の部屋に駆け込みます。

「なんじゃ、騒がしい」

「殿、大変です、敵が攻めてきました！」

殿様は扇子でぴしゃりと床を打ちます。

「むむむ、かくなるうえは……」

「ダメ、ダメ、ストップ！」

演出家の声が響き渡り、殿様役の役者さんは動きを止めます。

「何度言ったら分かるのかなぁ、そうじゃないんだよ。もっとこう殿様らしさを出してもらわないと……」

演出家はそう言うと、大きなため息をつきました。

「もし、呼ばれましたかな？」

演出家が足元を見ると、一匹のカエルがいます。

「わしはトノサマガエルじゃ。ため息などついて何かお困りごとかな？」

「ええ、実は殿様役の役者さんがどうもいまいちなもので、このままでは舞台の初日に間に合わないんですよ」

「なるほどの。どれ、わしが一つ手本を見せてやろう」

カエルがのそりと舞台に上がろうとすると、演出家は慌てて遮ります。

「でも、カエルさんのような見た目ではちょっと……」

「ええい、黙れ！」

カエルが大口を開けて一喝すると、演出家はたじろいでしまいます。

「魚は殿様に焼かせよ、餅は乞食に焼かせよと申すではないか！このたわけめ！」

「はは～！」

演出家は額を床に付け、その場にひれ伏します。

「苦しゅうない、面を上げよ、はっはっは」

桜の花の蕾が膨らんできました。もうすぐカエルが冬眠から目覚める時期です。チヒロちゃんは水槽をそっとのぞきます。カエルはまだ、眠っているようです。こころなしか口元がほころんでいるように見えます。

デラシネ書館

読み物の制作、執筆を行いながら流離っています。制作物は、墨田区京島で月に一回開催される「デラシネ書館放浪記」で販売しています。開店日時については、HPでご確認ください。
https://dera-cine.tumblr.com

場所：〒131-0046
墨田区京島3丁目18－3
Cghg内、グリーンスタジオ

すみだのペットちゃん

今回のペットちゃん
cheriちゃん

ネザーの♂シェリちゃん8歳です。820gと小さいですが、もう初老です。甘えん坊な性格で、家中ずーっと追いかけて来て可愛いが過ぎます♡反面、こちらがどんなに疲れていても大ハッスルしているので飼い主に休息は与えられません笑。うさぎはとても賢く、名前はもちろんご飯や遊ぶ時間も覚えていて、毎日決まったルーティーンで過ごします。

飼育は簡単に思われがちですが、とても繊細さんなので実際はとんでもなく大変です。気温・湿度を1年中うさぎに合わせて管理する必要がありますし、うさぎ専門医も少なく通院も大変です。

最近は年老いて医療費も嵩み、月によってはトータル20万以上程掛かる時もあります。それでもこれからものんびり長生きして欲しいと日々願っています。

文：飼い主の
cheri__kaさん

Sumida no cafe

～墨田カフェ探訪～

墨田区のおしゃれなカフェや老舗喫茶店など、美味しいドリンクやスイーツをいただきながら至福のひとときを過ごせるカフェをご紹介。

もちよりぱんSAMBA

築60年のアパートを改装したパン屋さん。
2階のイートインスペースには、年代物のガラス戸や家具、装飾品が備え付けられ、落ち着いた空間が広がります。
店に入ると迎えてくれるのが、店主の母、義母、叔母と80歳を超える3人の看板娘。お母さんたちとの会話も楽しみの一つです。
常時30種類ほどのパンが用意されています。人気の3色あんこぱんやベトナム風蒸し鶏サンド、漬物ポテト三兄弟などオリジナルパンも楽しむことができます。

東京都墨田区押上3-26-6
TEL：03-6657-3938
営業時間：12:30過ぎ～18:00
定休日：月・木・日
※インスタをご確認ください。
Instagram：@mochiyoripan_samba

※新型コロナウイルスの感染拡大防止により、営業日時、メニューを変更する場合がございます。お出かけの際は、SNSをご確認ください。

すみだノートについて

東京スカイツリーの開業以来、より多くの人に認知され、訪問されるようになった墨田区。もとより墨田区は、人・文化・伝統・産業・名所・お店・イベントなど、多彩な魅力を持ち備えたまちです。そんなまちの魅力を紹介して墨田区の良さを再発見し、私たちの住むまちをもっと好きになることで、まちはさらに元気になり、活性化していくはずです。等身大の墨田区の情報を発信する「すみだノート」は、春・夏・秋・冬の年4回発行。皆様が気軽に手に取れるように、区内の店舗や施設で配布します。次号以降も編集部一同、読者の皆様に愛される紙面づくりに取り組んでいきます。今後ともご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

すみだノート編集部

すみだの想い出

すみだの想い出を語っていただきました

ご当地ヒーローが子供達に伝えたいこと

すみだの平和を守るため、日々パトロールに励んでいるスミダーであるが、幼い頃は“仮の姿”でよくこの地で遊んでいたものだ。
その拠点となっていたのが、昔はあちこちにあった駄菓子屋。10円玉数枚を握りしめ、そこへ行くとどこからともなく馴染みの顔が集まってくる。店の前にはゲーム機やガチャガチャが置いてあり、駄菓子をモグモグしながら誰かがやるのをじ～っと見ていたり、友人や店のおばちゃんとくだらない話をしたり…さらに奥には鉄板を囲んで、もんじゃ焼きが食べられるところもあった。小麦粉を水で溶いだけのシンプルなものだったが、そこにベビースターや魚肉ソーセージなんかをトッピングするともうたまらん。百円もあれば贅沢の極み！今思うとお金の使い方をこんなところで教えてもらっていたのかもしれない。
通りがかりの近所の大人達も気軽に声をかけてくれた。悪い事や危ない事にはまるで自分の子供のように注意し、カミナリみたいなオヤジもいたけど、なぜか嫌いじゃなかった。
何が正しく、何がいけないのか…その答えが曖昧になっているこのご時世。スミダーが一番大切にしているものはそんな下町の“人情”である。これさえあれば世界は平和だ。すみだの町から世界の子供達に、そのことを伝えるべく俺達は今日も行く！

下町人情剣士
スミダー 1号
エドムラサキ

すみだノートへの広告掲載について

～すみだノートは、サポート会員のご協力により発行しています～
「すみだノート」は地域の方々と共に良質な情報を発信していく媒体を目指しています。「すみだノート」では、媒体の趣旨に同意していただき、共に地域の活性化を目指す、企業・商店さまのサポートを募っています。ぜひ、ご参加お願い申し上げます。

●フリーペーパー広告掲載費
広告枠：1枠 69mm×60mm 33,000円（税込）～

●すみだノートプレミアム会員（年間契約）
特典：すみだノートWebサイト「トップページオススメお店紹介」掲載
すみだノートWebサイト「お店情報（会員特別版）」掲載
すみだノートWebサイトのトップページにバナー設置可
取材記事掲載　年5枠広告掲載（1枠x3回 2枠x1回）
会費：月額11,000円（税込）x12ヶ月 ＊年間分一括支払い

●すみだノート会員（年間契約）
特典：すみだノートWebサイト「お店情報（会員特別版）」掲載
すみだノートWebサイトのトップページに小型バナー設置可
取材記事掲載
会費：月額2,750円（税込）x12ヶ月 ＊年間分一括支払い

発行・制作：SUNNY PASTEL合同会社
〒131-0046 東京都墨田区京島3-18-3
E-mail：info@sumida-note.com

すみだノート
ホームページ
のご案内

墨田区の地域情報・イベント情報・お店の案内・生活情報などをお伝えする「すみだノート」ホームページ。紙面では伝えきれなかった情報や、日々のイベントの取材記事も掲載しています。「すみだノート」フリーペーパーと併せてご覧いただき、墨田の新しい魅力に出会ってください。

https://www.sumida-note.com　すみだノート　検索